

イチゴ (バラ科)

宝交早生、女峰、とよのか

1 作業体系

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
作業体系	親株植え付け ○			(採苗・仮植) △		定植 ◎		追肥			追肥	マルチ掛け		収穫 □□□□
	ランナー配置										(露地) □□□□□□			
											(トンネル)			

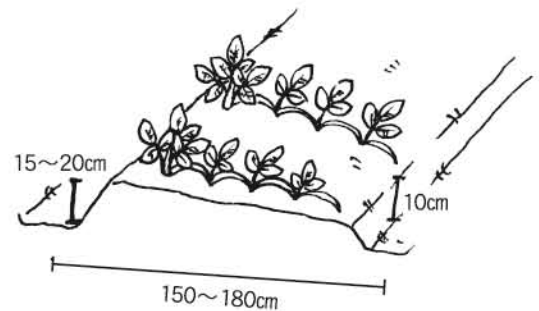
2 ここがポイント!

- ・ 苗の生育適温は、18～23℃で、5℃以下になると生育を停止します。寒さには強いですが、-8℃以下になると、寒害を受け、枯死します。
- ・ 無病の親株を使用します。
- ・ 乾燥に弱いので、かん水をこまめに行います。
- ・ イチゴの根は肥料に弱いため、有機肥料を中心に施し、多肥にならないよう注意します。

① 親株植え付け・ランナー配置

5月上旬に親株を植え付けます。親株1株につき30本くらいの子苗をとることができます。

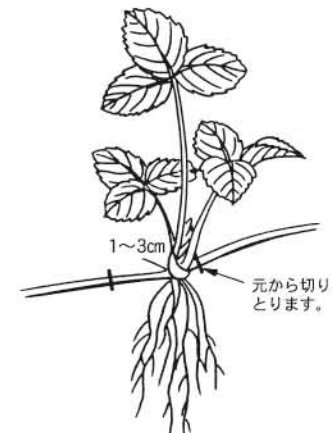
植え付け後、根が張ってくると、ランナーが出てくるので、混み合わないよう配置します。



② 採苗・仮植

子苗は本葉が3枚前後のものを選び、採苗します。親株側のランナーを約3cm残して切り、反対側のランナーは元から切ります。

15cm間隔に植え付け、根が張るまで3～4日は寒冷沙で遮光し、かん水します。その後、寒冷沙をはずし、葉4枚前後確保を目安に下葉かきを行い、ランナーも取り除きます。



〈採苗の方法〉

③ 畑の準備・植え付け

排水の良い畑を選び、堆肥などを十分に施用し、よく耕しておきます。

株間23～25cmで2～4条に植え付けます。

苗の大きさは、クラウン（茎の太さ）1.5cm、本葉5～7枚、草丈15～20cmくらい。根は根数が多く白色であることが望ましいです。

親株側の反対側に実をつけるため、実のつく方向を通路側または南側に向けて植えます。



④ 追肥

開花期と果実の肥大期に肥料をよく吸収するので、追肥をして果実の肥大を促します。

⑤ マルチ掛け・その他管理

新葉が出てくる3月中旬～下旬頃、古い葉を取り除きます。同時に、黒マルチを掛けます。

〈露地栽培〉

4月頃、花や蕾が霜害を受けないよう、夜間のみ寒冷紗などで霜よけします。

〈トンネル栽培〉

早く収穫するため、3月中旬からビニール等のトンネルで保温します。

昼間は温度が上がるため、換気します。また、開花期以降は訪花昆虫（ハチなど）が花に来るように早めに換気を始めます。

3 施肥設計

10㎡あたりkg

肥料名（窒素－リン酸－加里）	基 肥	追 肥	備 考
土力のおかげ堆肥	20～30		・ 追肥は分けて施用します。
苦土石灰	1.0～1.5		
BM苦土重焼燐（0－35－0）	0.4		
野菜有機ペレット（10－5－7）	1.0	0.6	

4 収穫

開花から約30日で収穫できます。品質低下を防ぐため、早朝の涼しい内に収穫します。

5 病虫害防除

乾燥すると、アブラムシやダニが発生します。

炭疽病等の病気の発生を抑えるため、作業は晴天時に行います。

連作は避けます。

6 豆知識

ビタミンCを多く含み、イチゴ1個に含まれるビタミンCはレモンの約半分です。中程度の大きさのイチゴ5粒程度で1日に必要なビタミンCを補給できます。また、下痢や便秘を防ぐなど整腸作用を持つ水溶性の食物繊維ペクチン、体内に蓄積されたナトリウムの排泄を促し高血圧を予防するカリウム、虫歯予防効果があるキシリトール、ビタミン、ミネラルなどがバランスよく含まれています。ビタミンCは水に溶けやすいため、さっと水洗いします。

	(生)
ビタミンA (カロテン)	18 μg
ビタミンC	62mg
カリウム	170mg
カロリー	34kcal
五訂 日本食品標準分析表より	(100gあたり)